

## 優秀賞

磯崎 權 (いそざき かい) 由木中央小 2年生

作品名: ふたりおなじ星のうえでを読んで

図 書: ふたりおなじ星のうえで

この本は、南インドにすんでいる9さいの女の子ラマデビと日本にすんでいる9さいの女の子はるかの生活をくらべています。

この本を読んでいちばん心にのこったところは、ラマデビのいえには水道がなくて、ラマデビが朝5時ごろにおきて水をくみに行かなければならないことです。なぜかというといえに水道がなくてびっくりしたからです。それに子どもがおもい水をはこぶのは、とてもたいへんだと思いました。

ぼくとラマデビはちがうところがたくさんあります。たとえばのう園ではたらいしているところ、学校に行っていないところ、外でごはんをたべたり、ねたりしているところなどです。ラマデビのいえにはお父さんがいません。ラマデビはお母さんをたすけるために、まだ9さいなのにめんかののう園ではたらいしています。ぼくにはぜったいできません。ラマデビはほんとうにえらいと思います。

ぼくはこの本を読んで、まいにち学校に行ったり友だちとあそんだり、ふつうにしていることがとても大切なことだとわかりました。なぜかという、ぼくがふつうにしていることを、ラマデビのようにできない子どもたちがいるとわかったからです。ぼくがふつうにしていることは、せかいから見るとあたりまえではないとかんじました。

ぼくはいまはラマデビのような子どもにできることはあまりありません。でもラマデビのような子どもがいることをもっといろいろな人につたえたり、ぼくがふつうにしていることをもっと大じに考えたりしていきたいと思います。そしてぼくが大きくなったらラマデビの国に行っていっしょに水をはこんだりべんきょうを教えたりしたいです。子どもがはたらかないで、学校にいけるように、ぼくができることを考えていきたいです。